

平成29年度 駿河台幼稚園 教育活動等に対する学校評価書

平成30年1月

学校法人 法城学園 駿河台幼稚園 園長 稲葉俊英

1 幼稚園の教育目標 …… 明るく素直な子

- ・思いやりのある子
- ・進んで運動や遊びに取り組む
- ・自分で考え、のびのび表現できる子

2 本年度の重点目標 … 夢中になって遊ぶ子

- ・3歳児：友達と仲良く楽しく遊ぶ
- ・4歳児：遊びに喜んで取り組む・友達と一緒に楽しく活動する
- ・5歳児：進んで活動に取り組み、最後までやり通す・感じたことを考えたことを表現する

※評価点 4(十分に成果があった)・3(成果があった)・2(少し成果があった)・1(成果がなかった)

(No. 1)

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
1. 保育の計画性	①園の教育理念・教育方針を理解している	3.3	定例会議等で園の理念や方針を基に話し合っている。園勤務の少ない職員にも浸透させたい。	3.7	学習保育だけでなく、体力づくりや保健衛生面にもよく配慮されており、子どもの保育態度も良かったです。学校にあがると、「駿河台幼稚園出身の子は穏やかだ」と評価されることが多いと聞かれますが、これも教育目標の「明るく素直な子」が実現していることの表れだと思う。⑤に関しては担任と補助の先生方の並々ならぬ努力と愛情を感じた。教育目標・重点目標とも大変良い目標と思います。学年別にそれぞれの年齢に合った保育内容、環境がとてもよく考えられていると感じました。
	②幼稚園教育要領を理解していると思う	3.1	教育要領等の改訂があった。研修や会議の場でさらに学び合い、実践化につなげていきたい。		
	③園の教育課程を元に保育の計画を立てている	3.3	教育課程に基づいた計画づくりに努めている。新採職員等は、実践を通して意識化したい。		
	④指導計画は教育要領・教育課程・子どもの実態などをベースに考え作成している	3.4	教育要領等の趣旨を理解した上で、子ども一人ひとりの実態把握に努め、柔軟で子どもに寄り添った実践を積んでいく。		
	⑤幼児の発達や生活を見通して環境構成をしている	3.3	発達段階や実態を考慮して、園児が主体的に関わりたくなるような環境構成を目指していく。		
	⑥保育を見せ合い検討・反省・評価を加え子どもの生活と自分の保育に繋げている	3.3	園内研修を通して自他の保育について振り返り、次に生かそうとしている。園外研修への参加も図っていく。		
2. 保育の在り方・子どもへの対応	①朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないか確かめる	3.3	目を見て朝の挨拶をし、スキンシップを回りながら体調把握をしている。来年度は専任の養護教諭により健康教育を進めていく。	3.8	長年のノウハウの蓄積もあり、保育のレベルは高いと思いました。子どもたちのまとめ方が良いと思いました。徒歩で通園している際の様子や、家での子どもたちの話で先生方の姿勢には感謝と信頼をしています。②の評価が低いが、これはなかなか難しいことでもあり、そのことをカバーするために補助の先生方が十分に動いてくださっていると感じた。①の登園時には先生方の清々しい挨拶と泣く子へのフォローなど、色んな面での配慮が行き届いている。人数が多いところでは保護者の人間関係を避けたくて、他園へ入園する人もいるよう人数が多いところは工夫する必要があるかもしれない。「正座」の教育を続けていきたいと思っています。保護者の方から高い信頼と評価を得ています。徒歩通園の先生のローテーション制などからも教職員の方が全園児と積極的に関わりを持つようとする幼稚園側の姿勢がよくわかります。
	②見えないところで活動している子どもについても、その活動の様子を予測できる	2.8	視野を広くして子どもの活動を把握していく。他の教職員とも連携し、多くの目で子どもを見取りながら、動きの予測にもつなげていく。		
	③子どもの気持ちに共感しながら、一緒に遊ぶ	3.4	子どもの思いに寄り添いながら一緒に遊び、スキンシップをとっている。輪から離れている子には特に声掛けをするようにした。		
	④教職員全員が、全園児について、ある程度理解しているよう様々な工夫をしている	3.2	徒歩通園を通して、多くの教職員が全園児に関わる機会がある。子どもの表れについてもよく話題にし共通理解に努めている。		
3. 保育者としての能力や良識・適正	①より高度な専門知識や技能を身につけようと研修・研鑽に励んでいる	2.4	教育要領等の改訂、こども園化などの変化に対応する力をつけるために、これまで以上に園内外での研修を充実させたい。		

評価対象	評価項目	学校関係者評価委員会			
		評価	幼稚園としての反省と改善策	評価	意見
3. 保育者としての能力や良識・適正	②子どもや、保護者との対応には、公平さをかせないようにする	3.3	子どもや保護者との信頼関係づくりに努めている。個別対応の際には公平さに配慮していく。	3.5	<p>こども園の新設により教職体制や教育・研修も複雑化してきます。中長期計画で体系づくりに取り組まれない。ひとつづりが一番難しいことと思います。</p> <p>①③④⑤については外部からは評価できない分野ではあるが⑥は⑥-3の設問同様子どもたちの心や頭の中に与える影響が大きく、先生方に教わったことは目を輝かせて報告していた。②については若干個人差があると感じた。「できる子」に対してはやむを得ないと手薄になっている節があったが、これは先生の個人差があり全体ではない。</p> <p>子どもの変容、成長をしっかりと見る。気づく目と心をもって取り組んでいることが素晴らしい。全般に教職員の方の意識の高さが感じられます。⑤の自己評価が高いのは素晴らしいと思います。</p>
	③自らの健康に配慮し、爪が伸びていないか等、保育上での安全性にも気をつけている	3.3	自他の健康に配慮するのは教職員の義務である。保育の安全性には常に気を配っていききたい。		
	④教職員全員と親しく付き合い、片寄せた人間関係を作らない	3.2	「感謝」の思いをもって人間関係づくりに努め、明るい職場を目指していく。		
	⑤子どものささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	3.5	子どものささやかな成長を全職員で喜び合っていきたい。その素地はできている。		
	⑥幼稚園の子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	2.7	教職員として視野を広げ、豊かな人間性を培うためにも関心を高めたい。		
4. 保護者への対応	①個々の子どもの様子は、直接保護者に話したり、電話・連絡帳等を使い伝え合っている	2.4	丁寧に行うように努めているが子どもの成長や頑張っている姿はもっと伝えていきたい。	3.3	<p>保護者の評価委員も学園の対応を評価していた。日頃の保育状況の見学等の回数や機会を増やす仕組みを検討されたい。</p> <p>送迎時に担任の先生に子どもの様子を丁寧に話していただいたり、こちらの要望を速やかに先生同士で共有していただき対応していただきました。</p> <p>他園の比較すると総じて駿河台幼稚園は保護者と先生方、保護者と保護者の関りが少ないと感じる。そのことが誤解を生むことにつながっていると感じたケースもあった。子ども一人ひとりを丁寧に保育してくださっている素晴らしい幼稚園であるのにその詳細を知らずに通わせている保護者も少なくない。同様に保護者同士の交流も必要である。</p> <p>全体的には誠意を持って対応されていると感じます。①については評価を上げる必要性が高いと感じます。</p>
	②保護者の要望を受け止めて実行する場合は、教育的な意義付けをはっきりさせる	2.4	経験の多い教職員にはハードルが高い面がある。周囲にも相談し、教育的意義をはっきりさせ保育のポイント等を上手に伝えたい。		
	③保護者の住所・電話番号など、個人情報の管理については園の方針に従う	3.5	パステルAppsの導入に伴い、個人情報の管理について研修しているが、より厳正に扱っていく。		
	④保護者との会話は、正しい日本語・敬語で語りかけ、相手の話も落ち着いて聞く	3	正しい日本語・敬語についての研修をしたが、教職員の話す力・聴く力を更に高めていきたい。		
	⑤保護者からのクレームには、まず謙虚にその話を聞き、上司に連絡・報告・相談をする	3.5	保護者からの要望・意見・苦情については報連相を密にして真摯に対応するようにしている。		
5. 地域の自然や社会との関わり	①園へ見学に来た人に、園の教育方針等を質問されても、きちんと答えることができる	2.8	教職員全員がきちんと答えられるように共有化を図っていく。難しく考えず、誠意ある対応をしたい。	2.8	<p>地域の評価委員として地域イベントや敬老会の情報を提供するよう努力します。</p> <p>小さい頃しかできない泥んこ遊びや砂場遊び、畑での収穫等の機会が少ないように思う。お年寄りや小中学生との交流機会も少ないのでもっと地域を巻き込んだ保育を実現してほしい。</p> <p>地域との交流を今後ともよろしく願います。小学校との交流、接続も計画的に願います。</p> <p>こども園化に伴い今後意識を高めていくことが必要な項目だと思います。</p>
	②子どもの教育のために、利用したい地域の施設や機関について理解している	2.1	決まった施設や機関にだけに頼るのではなく、アンテナを高くし、活用の幅を広げたい。地域理解も深めたい。		
	③地域開放や子育て支援について、具体的な形や内容を理解している	2	こども園化に伴い、地域開放や子ども相談の営みをより充実していきたい。		
6. 研修と研究	①自分の保育の在り方や悩みについて、他の教師または主任と話し合う	3.2	園内研修は勿論のこと、普段の保育についても職員で語り合うことができる環境を整えたい。	3.3	<p>副園長の話の中にあつた「自省」により、新たな物事を検討し、研究されていると思います。教職員に徹底され研究を深められたい。</p> <p>③については2.6となっているが先生方のそういった姿を子どもたちが知って喜んでいて。「先生が〇〇にお出かけしたって」「先生がギターひいてくれた」など③は子どもたちの世界を広げてくれる要素になると感じた。</p> <p>こども園になることを機会に専門性を高める研修を計画されていることと思います。焦らず一歩一歩進めていることを期待しています。</p> <p>なかなか周りに見えない項目なので、園の更なる質の向上のために意識を高めていただけたら良いと思います。</p>
	②園の遊具や教材について様々な利用方法について研究している	2.4	新しい遊具・教材も増えてきているので、活用方法について更に研究していく。		
	③保育の専門知識や技能の他に、趣味や読書・ボランティア活動などに関心がある	2.6	忙中閑あり。教職員の遊び心が子どもの遊びを豊かにするので関心を高める。ボランティア休暇の新設等、幅広い活動を園でも支援していく。		